労協連だより

古村伸宏（日本労協連・事務局長）

猛暑から一転、涼しい日々に安堵したものの、久しぶりの水不足に「地球環境」を痛めつけてきた「ツケ」を、毎年払いつづけている気分になっています。しかもツケを払いつつ更に痛みつけるという、日本政府・経済のような悪循環を断ち切る、「聖域なき生活環境の改革」もまた、自覚的に進める必要性を痛感します。

連合会の仕事に携わって、はや２ヶ月が経過しました。センター事業団以外の加盟組織の姿を一つひとつ拝見する中で、徐々にやるべきことや発信することが示唆されています。兵庫では、全日自労から引き継いだ自治体との関係が、「地域福祉」の展開で広がりを見せています。しかも、建物等の物質的な支援も受け、地域に根を広げている勢いを感じました。また、兵庫県内の労協が協議会を作り、兵庫労協の構想も検討されており、深さと広さを同時に実現しようとする時期にさしかかっていることを感じました。また、石巻事業団では、市内で民間初のヘルパー講座開講を皮切りに、失敗も経験しながら、原則的な福祉事業所づくりを着実に進めていました。周辺町村への複合的な展開も、「私の所のここを使ってもらっていいですよ…。」と言う声も集まってきていました。

８／４・５には、「学習教育元年」と位置づけた２００１年度の学習教育活動を進める、各組織の担当者が集う会議が行われました。学習教育の重要性を感じつつも、後回しにされがちだった課題への挑戦です。協同組合における学習とは何か、学習と教育の違い、そして今の悩みと夢（ビジョン）などを、実践を報告し合い分散会で深めながら、参加者全員が来年６月までの「アクションプラン」をつくりあげて帰りました。若手・ベテラン問わず、主体的な「学び」が組織の文化にまで広がっていく、そんな活気に溢れた会議でした。組織的には長野での実践が群を抜いていますが、「ビジョン」づくりから学習教育と言う意味では、多くの人がスタートラインに立って、自分の任務を理解したと思います。今後担当者同士が日常もヨコでつながって、様々な情報・意見交換されると、全国的な学習教育活動が本物になっていくでしょう。やはり人が実際に集う良さ・意味を実感した次第です。

１１/３の高齢協の全国連合会結成に向け、本部も総力で取り組みを追い上げる時期に入っています。AARPの現・次期理事長の来日や厚生労働省の正式対応など、国際的な期待を集めての船出です。まだまだ実態は未熟なところも多いのですが、全国的な連帯によって新たな運動の契機につながればと思います。そして、高齢協に集う組合員の「協同の質」を深めることで、社会的な協同のネットワークが強化され、高齢協の活動に活力を与える、という好循環に入っていけばと思いまし、他世代・全世代の協同を大きく掲げる時です。そこに高齢者の誇りと存在が輝く地域が誕生するというビジョンを持って…。

この間の活動で、改めて協同組合の生命は「人」であることを痛感しました。「人」あっての協同組合。いろんな人との出会いを思い浮かべながら、富田前事務局長から引き継いだ、ＪＪＣ関係者とのつながりも強めねば、と焦りつつ全国縦断シンポの秋に突入します。

★★☆ 研究所たより ☆★★

事務局体制が一新したのに合わせて、会員名簿の更新作業を行っています。前回の更新が１９９７年度ですから、４年近く会員名簿の更新が行われていませんでした。前号の所報と一緒に変更確認の資料をお送りしています。すでに沢山の方からの変更ハガキが届いていますが、**変更が全くない方も、無記入で結構ですのでハガキをご返送ください。**お願いいたします。

ところで、４年の間に私たちの生活の中で大きく変わった事項として、インターネットとパソコンの普及があります。今回の名簿更新にあたって、住所・電話等と共にｅメールのアドレスを伺ったところ、かなりの割合で、会員の皆さんがｅメールアドレスをお持ちのことがわかりました。

すでにこれまでも、研究所の活動の中では、会員間、また会員と研究所の相互交流や情報交換の手段としてｅメールが活用されてきました。特に、数年前に始まった「協同総研メーリングリスト」は、日頃、なかなか研究所の活動に参加できない会員の方々の交流の場となってきました。今回、名簿更新にあわせて、メーリングリストへの新規参加者を募ったところ40人ほどの方が新規に参加を希望され、合計で参加者は約110人になりました。

メーリングリストとは、例えばある人が協同総研メーリングリストへ送ったメールが、そこに参加している110人全員に転送されるシステムです。多くの人に知ってもらいたい情報（集会・イベント・要請など）を発信したり、逆に自分の求める情報を、多数の人に問い合わせる、また、ある問題についての意見交換を行う、といった使い方をするときに、大きな力を発揮します。確かに「自分と直接関係のないメールが送られてくるのは迷惑だ」と考える人もいますが、最近のパソコンの性能の向上（ハードディスクの容量の増大）や通信環境の向上（つなぎ放題サービスやブロードバンドなど）を考えれば、技術的にはあまり気にならなくなってきているのではないでしょうか。むしろ最近ではコンピューターウイルスなどの方が気になる方もいるかも知れません（先日もウイルス騒ぎがありました）。しかし、そのようなリスクを差し引いてもなお、メーリングリストには大きな意義があります。

協同総研のメーリングリストは、協同組合やその周辺の方に参加してもらっています（会員に限ってはいません）。日本の協同組合運動はどうしても狭い自分たちの組織内にこもってしまいがちな印象があります。協同組合運動の実践者と研究者、応援者をつなぐ「場」にこのメーリングリストがなりうるのではないか、と思います。ＩＴ技術を過信するわけではありませんが、協同総研のようなスタイルの研究所では、ＩＴ技術を上手く使いこなして、全国の全世界の実践者や研究者と連帯していくことがふさわしいのではないでしょうか？

当面、研究所の会員拡大と同時にメーリングリストの参加者を増やしより活性化した「場」として育てていくため、研究所からもより積極的に情報発信をしていきたいと思います。会員の皆さんのご参加をお待ちしています。

（菊地　謙）